

筑波大学新聞

第314号

編集責任 筑波大学新聞
編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

谷口陽子准教授	壁画や装飾品を調査・修復	2
つくば芸術祭	中村佑介さんが講演	5
柔道	永瀬全日本選手権3位	8
ハンドボール春リーグ	好調の女子現在2位	9
自転車	駐輪マナーに市民から苦情	11
路上わいせつ	被害女性事件の状況語る	11

3	地域と大学つなぐ 社会貢献プロジェクト
6,7	特集 つくばから発達 未来の乗り物

LINE 社社長 森川亮氏 つくばをシリコンバレーに



森川亮氏

「筑波大発の起業家を」
スマホ向けアプリ「LINE」を提供するLINE社社長の森川亮氏(昭和63年度第三学群情報学類卒業)が本紙の単独取材に応じた。この中で森川氏はLINEの成功について「スマホに特化した、誰もが使えるシンプルな機能がヒットの理由」と発言。また、最近LINEをめぐりいじめが頻発した問題については「LINEやスマホの使い方の教育が必要だ」と語った。一方、森川氏は主に筑波大生を対象に7月「ビジネスコンテスト」を計画中だと明かし、これを機に「筑波大発の起業家を増やし、つくばをシリコンバレーにしたい」と語った。(平嶋健一/社会学類3年、2面に森川氏の経歴と関連記事)

7月中旬
ビジネス計画
LINE社は2000年創設。森川氏は07年に社長に就任したが、11年に提供を開始した「LINE」がヒットし、現在、4億人以上のユーザーがいる。森川氏はLINEのヒットの理由について「日常的に(無料で)使えるサービスだから受け入れられた」と発言。LINEを「水」に例えた上で「皆が(本質的に)欲しいのは色が付いていたり、においがする水ではなく、安心安全で無料なもの。LINEも水と同じだと思う」と話した。

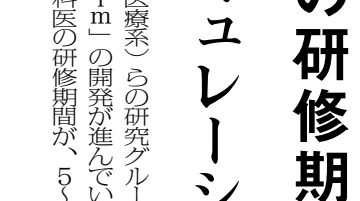
この一方で、LINE上でのいじめが多発している問題については「使い方の教育が必須」として「LINEが要」とした上で「LINEがなくても、いじめは根絶しない。どういじめが起きるのかを解明する方も大事だ」とも指摘した。

一方、森川社長は「筑波大発のベンチャー企業を増やしたい」と発言。今年7月18-20日に主に筑波大生を対象にしたビジネス「Tsukuba Creative Camp(TCC)」を開催する計画を明かした。将来的にはTCCを筑波大の授業科目として大学側に提案したい考えで「授業から学生がそのまま起業できるようにしたい」と話した。

ビジネスコンテスト
略称ビジネス。参加者が利益を生み出すプランを考え、その優劣を競う。学生が対象のものが多い。

TCC実行委員会によると、TCCは7月18-20日の予定で、ビジネスでは筑波大出身の経営者などを審査員に学生らが発表する。事前申し込みが必要。詳細は<http://tcccamp.net>

外科医の研修期間短縮へ 手術シミュレーション開発



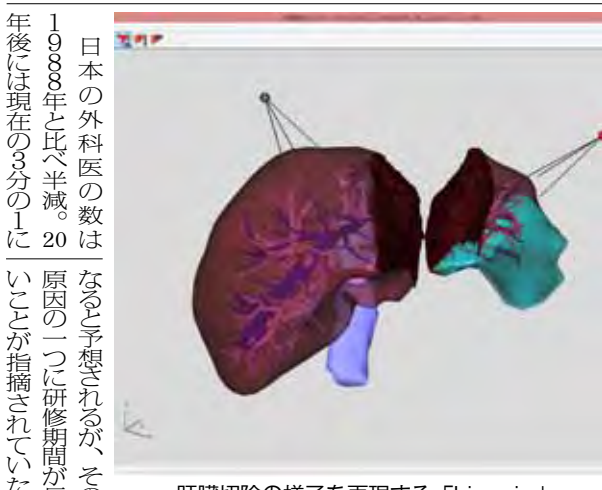
「Liversim」

大河内信弘教授(医学医療系)らの研究グループによる手術シミュレーションシステム「Liversim」の開発が進んでいる。同システムの導入で、今まで約15年かかっていた外科医の研修期間が、5〜8年短縮されるという画期的な成果が期待されている。(森脇慎二/社会学類2年)

「Liversim」は、様子や、臓器に力を加えたさまざまな患者のデータを、実際の変形具合も再現可能で、現実に近い形で手術シミュレーションができる。画面上で自由に切除したり回転させることが可能で、平成24年度に開発が始まった。切り離した後の血管の

が、手に臓器の触感を再現するバーチャルリアリティ装置の開発も進んでいる。実用化すれば、より実際の手術に近い体験ができるようになる。

今年2月からは筑波大の医学類4〜5年生の病院実習教育に導入されている。導入後、手術解剖の成績の上昇が見られ、学生からも好評だという。また筑波大附属病院では手術を受ける患者への説明にも用いる予定で、医学知識がない人に、難手術を分かりやすく説明できるようにもなる。



肝臓切除の様子を再現する「Liversim」

日本の外科医の数は1988年と比べ半減。20年後には現在の3分の1に、いことが指摘されていた。

なると思われるが、その原因の一つに研修期間が長いことが指摘されていた。

外科手術には人体構造を詳細に把握する必要があるが、教科書や図録だけでは実際の臓器をイメージすることは難しい。そのため、一人で手術ができるようになるまでの研修期間を長くする必要があった。

大河内教授によると、技術は医学医療系のほか、システム情報系、図書館情報メディア系が共同して開発している。「各系のレベルが高い筑波大だからこその研究。開発を進め、外科医不足を解消したい」と語った。



博士号「推進」へ活動続く

昨年10月、第一エリアの松美池に突如浮かんだボート「博士号」。その様子はツイッターで拡散され、話題になった。その後、学生が乗船できることを目指す大学公認の学生活動「つくばアクションプロジェクト」(T-ACCT)が発足。博士号の「推進」に向け活動を続けており、4月23日には松美池で「安全検証実験」が行われた。(10面に関連記事)

「伊豆をジオパークに」 登録に向け後押し

夏、「筑波大学社会貢献プロジェクト」の一環として企画した「伊豆海洋自然塾ジュニア養成講座」(小学3〜6年生が対象)は、盛況だった。講座は金目鯛の解剖や南極越冬隊経験者の体験談など盛りだくさんで、子どもたちは興味津々の様子だった。そしてこのイベントの精神は今も引き継がれている。

同センターは昨年、地元住民を対象に「自然体験のイベントを実施。定番の磯の生物観察のほか、溶岩が吹き出して固まった場所など「ジオスポット」と呼ぶ必要があった。

大河内教授によると、技術は医学医療系のほか、システム情報系、図書館情報メディア系が共同して開発している。「各系のレベルが高い筑波大だからこその研究。開発を進め、外科医不足を解消したい」と語った。

「伊豆をジオパークに」登録に向け後押し
夏、「筑波大学社会貢献プロジェクト」の一環として企画した「伊豆海洋自然塾ジュニア養成講座」(小学3〜6年生が対象)は、盛況だった。講座は金目鯛の解剖や南極越冬隊経験者の体験談など盛りだくさんで、子どもたちは興味津々の様子だった。そしてこのイベントの精神は今も引き継がれている。

同センターは昨年、地元住民を対象に「自然体験のイベントを実施。定番の磯の生物観察のほか、溶岩が吹き出して固まった場所など「ジオスポット」と呼ぶ必要があった。

大河内教授によると、技術は医学医療系のほか、システム情報系、図書館情報メディア系が共同して開発している。「各系のレベルが高い筑波大だからこその研究。開発を進め、外科医不足を解消したい」と語った。

「社会貢献プロジェクト」
同センターは在籍者約60人で、海洋生物の研究を行うが、研究成果を生かす活動を行う予定だ。

同センターは在籍者約60人で、海洋生物の研究を行うが、研究成果を生かす活動を行う予定だ。

「社会貢献プロジェクト」
同センターは在籍者約60人で、海洋生物の研究を行うが、研究成果を生かす活動を行う予定だ。

同センターは在籍者約60人で、海洋生物の研究を行うが、研究成果を生かす活動を行う予定だ。

「筑波お話し」
大学で学び1年がたった。親しい友人もでき、サークル活動では「中核」になったという自負も持っているようになった。だが、「今の自分は本当に充実しているのか」と考えることがある▼「そもそも「充実」とは何なのか。内閣府の調査によると、日本の18〜24歳の若者の約75%が、充実感を感じるのは「友人や仲間」と答えた。若者の流行語「リア充」(リアルな生活の充実)もネットでは「交友関係が広い人」「恋人がいる人」と定義されている▼だが友人を持つことだけが「リア充」につながるわけではない。広辞苑によると、「充実」とは「中身がいっぱい入っていること。内容が満ちて豊富なこと」だ。新しい知識を手に入れた時。美しい景色に出会った時。一人で充実感を得ることは可能▼政治学者・丸山真男の「日本の思想」(岩波新書)を読みふけたことがある。「人間は日々自由になるにつれて自由になる」という著者の言葉の意味を一日中考え続けた。その時間は確かに充実していたと思う。「充実」も自由と同じで、自ら考え行動しなくては得られない▼「充実」とは個人が決めていくものなのだろう。そのためには自分の心を満たす何かを探し出さなければならぬ。他人が決めた物差しで、充実の度合いを計ることができない。



インタビューに答える森川氏

森川 LINE 社社長

まずはアクションを

「考える前に行動する」に集中する……。LINE社社長の森川亮氏(昭和63年度第三学群情報学類卒業)は、経営など自らの理念を聞かれ、そう繰り返した。また若い世代には、安定期志向を促す「今やりたいことをやってみよう」とも。森川氏とのインタビュー内容は以下の通り。

(平嶋健人II社会学類3年、林健太郎II同2年)

「今やりたいこと考えて」

■経営理念について聞かされたとき。時代の変化に対応することが一番重要だと考えています。10年後がどうなっているか誰も読めない世の中で、10年後の計画を作っても意味がない。今に集中する、もしくは予測できる範囲で高いものを目指すようにしています。

日本人は計画立案に時間を使って、実際の行動に結びつかない人が多い。大事なことは計画ではなく、まず何かアクションを起こすこと。社員には考える前に行動するスピード感を求めています。計画にこだわると本質を見失います。

■「起業」とは何なのですか。起業は結果的にはお金を儲けつつありますが、自分の技術や知識で社会に貢献することがゴールだと思っています。

最近の大学の先生には「過去を勉強しても仕方がない」という意見が多いようです。これだけ変化する世界だと、過去に起こったことは未来で起きないだろう。だからこそ「考える力」を鍛えるべきだという意見が多い。でも考える力をつけるだけでもだめで、(学生たちが)実際に行動に移ることを支援する仕組みも必要です。

■筑波大生への支援策を考えていますか。「つくばを(米国のシリコンバレーみたいな)にできたらいい」と漠然と思っています。シリコンバレーも、あるベンチャー企業が生まれたのをきっかけに発展した。つくばでは最近、徐々にベンチャー企業が生まれつつあるので、それを機に大きく変わることを期待しています。

■「つくば」で学生に求めることは。とにかく多くの学生に参加してほしい。僕が大学生のころは、「大学がつまらない」という学生が大勢でした。「どうしても受けない」という授業が特になかった。だから、多くの学生がわくわくするような授業を勉強できる大学にしたい。そのためには、学生と一緒に大学を育てていかなければいけない。

■当時のつくばの印象は? 夜道は暗く、とにかく歩いている人がいない、というのが当時の印象です。いろいろなアルバイトをして、大企業ではできない経験ができたことも思い出です。東京だと家庭教師など知的なアルバイトも多いですが、当時つくばにはそんな仕事もなくて、ラーメン屋の皿洗いや、駐車場の交通整理員まで何でもやっていた。

■若い世代へのメッセージをお願いします。昔は起業するのに、お金がないとできないことが多かった。でも今はお金があってもいい。お金のあふれる時代です。お金のあふれる時代です。お金のあふれる時代です。

アフガニスタン パーミヤン遺跡 壁画や装飾品を調査・修復



調査を行う谷口准教授

谷口陽子准教授

文化財の保存科学を専門とする谷口陽子准教授(人文学部)が、中央アジアを中心に世界各地で古代壁画や装飾品などの貴重な文化遺産の保存・修復活動を行っている。時間とともに劣化する重要な文化遺産の保存・修復活動で、壁画に使われている彩色材料から新たな地域交流の歴史や世界最古の油絵の発見に関わるなど、大きな成果も上げている。(林健太郎II社会学類2年)

谷口准教授は2005年一で行われているパーミヤン跡はイスラム主義勢力タリバンから、東京文化財研究所の遺跡(アフガニスタン)のバンのテロ活動によって破損されたため、03年から修復活動を行ってきた。遺壊されたため、03年から修復活動を行ってきた。谷口准教授は「壁画に残る宗教の精神性や歴史の深みを消さずに修復し、後世に伝えたい」と語る。一方で、今後の活動について「壁画に使われている彩色材料から、文化交流や技術交流など人類の英知を解明したい」と話している。

放射線物質を高度に吸収 白岩教授らが発見



「nak9」の培養風景

微細藻類「nak9」

放射線物質を高度に吸収 白岩教授らが発見

福島第一原発事故でも飛散した放射性物質、セシウムを高度に吸収する能力を持つ微細藻類「nak9」を白岩善博教授(生環系)と井上敷教授(同)らの研究グループが発見した。福島第一原発での実証研究の許可が下りず実用化のめどは立っていないが、培養しやすい微細藻類を除染に用いることで、コスト削減が見込めるという。

同研究グループは、原発事故で飛散した放射性物質の中でも特に人体に取り込まれやすいセシウム、ストロンチウム、ヨウ素を除去する能力について、微細藻類や水生植物188株を調査。研究の結果、セシウム、ストロンチウム、ヨウ素を高度に吸収する株がそれぞれ5株、3株、8株発見された。中でもnak9と呼ばれる藻類は2日以内で培養液中のセシウムを90%以上除去・吸収する能力があることが分かった。

■当時のつくばの印象は? 夜道は暗く、とにかく歩いている人がいない、というのが当時の印象です。いろいろなアルバイトをして、大企業ではできない経験ができたことも思い出です。東京だと家庭教師など知的なアルバイトも多いですが、当時つくばにはそんな仕事もなくて、ラーメン屋の皿洗いや、駐車場の交通整理員まで何でもやっていた。

■若い世代へのメッセージをお願いします。昔は起業するのに、お金がないとできないことが多かった。でも今はお金があってもいい。お金のあふれる時代です。お金のあふれる時代です。お金のあふれる時代です。

海外拠点の新設 マレーシアとカザフに 筑波大学は4月24日、マレーシアとカザフスタンに海外拠点を設置したと発表した。各拠点は、大学のPR活動を行い、国際連携を推進していく。これにより、現地に派遣した留学生の確保も期待される。筑波大は、国際的に活躍できる「グローバル人材」の育成を強化するため、2006年から世界の主要都市に専用オフィス(海外拠点)を設けている。チュニスコオフィス(チュニジア)の設置を皮切りに、タシケ

マレーシアの「クアラルンプールオフィス」はマレーシア工科大学内に開設。筑波大から派遣された教員1人と、現地で採用した職員が在任しているが、9月にはもう1人、職員を追加で派遣する。筑波大は12年10月から、マレーシアで日本型の工学系教育を普及させるプロジェクトに参

加。この本部もマレーシア工科大学内に設置された「アルマトイオフィス」は、同大に採用された元筑波大の教員が勤務する。筑波大は現地の4大学と学術協定を結び、過去7年間で96人の留学生を受け入れてきた実績を持つ。現在の学術交流は人文社会系が中心のため、今回の海外拠点設置をきっかけに、数理工学系や生命環境系の学術交流の促進を図る。

今後は6月ごろまでにカザフスタン(カザフスタン)とサパウル(ラザル)にそれぞれ海外拠点を設置する予定。(望月麗)

研究それぞれが被災地の早期復興のために研究してきた。実証研究がいつ許可されるか分からないが、nak9を培養し続けた」として始動し、12年からは筑波大学震災復興支援プロジェクトに採択されている。(新田萌夏)

地域と大学つなぐ

社会貢献プロジェクト 10周年

「筑波大学社会貢献プロジェクト」が始まって10周年目を数える。このプロジェクトは、筑波大の幅広い学問分野の研究を生かした社会貢献活動を学内で公募し、その助成を行うもの。例年約50件以上の申請が寄せられ、これまでの活動は300を超える。過去とどのような活動が行われ、今年どのような活動が採択されたのか。そしてどんな反響があったのか。つぎに紹介していく。(油布知夏 II 人文学類、望月麗 II 比較文化学類、新田萌夏 II 社会学類、姉崎信 II 心理学類、添島香苗 II 生物学類)

小学生へ科学振興

理科の面白さ教える

「一人でも多くの子どもたちに理科の面白さを実感させたい」。小林正美准教授(数物系)は「出前実験講義」の目的のひとつをこのように語った。

「出前実験講義」はつくば市の小学校や公民館を中心に理科の実験教室を開く筑波大学社会



「出前実験講義」で実験を行う子どもたち

貢献プロジェクトのひとつ「お楽しみ。事前に「予告」対象は小学生が中心で、しないことで、子どもたち小林准教授は研究室の学生が予想外の実験を楽しまれると共に活動している。出よう工夫している。実験で「前」は年50回程度で、今年生物、天文など自然現象全で19年目を迎えた。

講義の内容は50までの一般を扱う。食べ物を使った

実験で「身近な不思議」にも目を向けさせる。

用意するものは空き缶や牛乳パックを使った手作りの実験グッズなど。実験グッズの使い方を一通り説明した後は、子どもたちが自由にグッズなどで遊べる時間も設け、子どもたちの主体性を尊重している。小林准教授によると近年、小学校の授業で理科実験を行う機会が減少しているため、身近で扱いやすい道具を用いることで、学校側が容易に理科実験に取り入れられるよう工夫しているとのこと。そのため、理科が苦手な小学校の教師から「参考になる」と好評だ。



実験のやり方を実演する小林准教授(左)

「出前実験講義」はつくば市だけでなく、県内外にも赴く。その実績が認められ、2006年に「社会貢献プロジェクト」の一環として大学から支援を受けるようになった。

アルミ箔で包まれたプラスチックコップに流れの電流に触れる実験では、子どもたちは「電流を身体に感じて痛かった」と歓声を上げた。また風船やプロペラを使ってヘリコプターを作る工作では、「風船をプロペラで飛ばす工作が面白かった」と子どもたちは次々に感想を述べ、「また

来たい」と笑顔を見せた。4月19日に筑波大学内で行われたキッズユニバーシティ。ここでも小林准教授は「面白不思議科学実験工作隊」として小学校高学年以上の子どもたちを対象に実験・工作の体験イベントを行った。同准教授が太陽光を集める特殊な器具を使って水を温める実験などを見せる度に子どもたちは歓声を上げた。

小林准教授は、「子どもたちの理科離れが叫ばれて久しいが、それは理科に触れる環境が少なくなってきただけ。実験の面白さを通じて主体的に理科に関わってほしい」と語った。

社会貢献経緯と課題



井上勲 教授

社会貢献プロジェクトの経緯や課題について、つくば・地域連携推進室副室長で、活動の企画採択などに携わる井上勲教授(生環系)に聞いた。

地域との連携強化したい

同教授によると、筑波大は人文社会科学、自然科学から体育、芸術、図書館学まであらゆる分野の研究・教育ができる環境と広大なキャンパスを有しており、「これらの強みを生かして、社会からの要請に応えた」と望む教職員は多かった。また、平成16年度に文科省から「大学は地域活性化に貢献すべき」との通達があったことを機に、国際貢献・産学官連携・地域貢献などを目指した同プロジェクトを発足させた。

その後、科学振興や国際

協力、環境保護、文化・地域活性化、健康・スポーツ、医療・福祉、復興・再生支援など多岐にわたる社会貢献活動が毎年実施された。平成21年度からは学生による提案も認められたほか、平成24年度からは活動報告会を実施し、特に優れた活動を表彰。異なる分野で活動する団体間の交流・触発の場ともなっている。

井上教授は、教授や学生が申請書をもとに平成18年度から企画の審査に関わっていたとして、「プロジェクトを開始してから10年、初期から継続している活動もあり、良い企画がたくさん育っている。つくば市周

員から専門分野などを考慮して選出された約10人で構成。提出された企画は、社会貢献度の重要性のほか、計画や経費は妥当か、自治体など協力者との連携はどうか...などの内容を考慮し、採択の可否を審査する。採択された企画には50万円前後の経費が支給される。井上教授は、「毎年50件以上の申請があり、取り組むは学内に定着しつつある。どれも熱意にあふれた素晴らしいものばかりだ」として、「プロジェクトを開始して10年、積極的にプロジェクトを語った。

平成26年度 主な社会貢献プロジェクト活動

〈科学振興〉

- ・夏休み自由研究お助け隊
- ・スーパーサイエンスリーグによる未来の科学者の育成～卓越した児童・生徒をさらに伸ばす試み～

〈国際〉

- ・国際都市つくばの新しい国際化施策一定住外国籍児童に対する「職育」プログラム

〈環境〉

- ・「昆虫青年」が「昆虫少年」を育てる！つくば2014 学生が地域の子供達に贈る体験型環境教育

〈文化・地域活性化〉

- ・つくさか地域食育支援プロジェクト
- ・筑波大学芸術資産活用による「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊2014」の実施

〈健康・スポーツ〉

- ・地域住民の要介護化予防支援体系の構築

〈医療・福祉〉

- ・科学的根拠に基づく母乳育児支援専門職の養成
- ・「宇宙」を用いて地域の人々に笑顔を～つくば市の病院、学校を中心に～

〈復興・再生支援〉

- ・東日本大震災津波被災地域におけるコミュニティ復興支援活動
- ・柔道の再興と学校必修化を支援する「東北3県柔道指導キャラバン」

短編映画作りで地域見つめ直す

短編映画作りや学習支援活動などを通して大子町の中学生と触れ合う活動だ。活動は今年2、3月に旧上岡小学校で7回行われ、大子町の各中学校から約10名の中学生が参加した。

短編映画作りでは、中学生らは2つのグループに分かれ、脚本やカメラ、絵コンテなどそれぞれ役割を分



映画制作の打ち合わせをする橋田さんと中学生たち

今後は、大子町の魅力をさらに外部へ伝えたいことが課題。5月には社会貢献プロジェクトの報告会で子どもたちの作品を上映する予定だ。短編映画がさまざまなところに発信されて、地域を活性化する未来も近い。

中学生と町おこし

茨城県北西部に位置する、滝や温泉で有名な町大子町(人口約2万人)の豊かな自然が広がるこの町で「みんなの乗校プロジェクト」が行われている。ここでも小林准教授は「面白不思議科学実験工作隊」として小学校高学年以上の子どもたちを対象に実験・工作の体験イベントを行った。同准教授が太陽光を集める特殊な器具を使って水を温める実験などを見せる度に子どもたちは歓声を上げた。

小林准教授は、「子どもたちの理科離れが叫ばれて久しいが、それは理科に触れる環境が少なくなってきただけ。実験の面白さを通じて主体的に理科に関わってほしい」と語った。

校をテーマに短編映画を作った。約10人の学生がサポートに入り、中学生らは学生と相談しながら作業に打ち込んだ。

学生代表の橋田悠子さん(教育専攻1年)は「短編映画作りでは、子どもたちに役割が分担されることであんな顔するんだね」と教師を驚かせるほど、普段は学生の間から映像制作が好きで、「主役になれた」と活動に参加した近藤雄介さん(教育4年)は、「どのグループにも、一人はふざけている子がいて、一人はまじめな子がいて、一人ひとりの役割が感じられて、みんなが協力して、地域をつなぐ力を持てることできる。外へ出ていく学生と地域の人々両者にとってプラスになる活動をしていきたい」と語っていた。

大子町の人口も現在は半分以下に減少。若い世代は都市に流出し、大子町は深刻な過疎に悩まされている。短編映画作りを通して、自分たちの地域を見つめ直すことも目的の一つだった。プロジェクトを監督した上田孝典准教授(人間系)は社会貢献プロジェクトについて「大学周辺で生活が完結してしまう筑波大生に、地域とのつながりを持たせることができる。外へ出ていく学生と地域の人々両者にとってプラスになる活動をしていきたい」と語っていた。

第30回つくば芸術祭 春のつくばを彩る2日間

筑波大学の芸術系サークル連合会が主催する「第30回つくば芸術祭」が5月3-4日につくば駅周辺で行われた。3日には人気イラストレーターの講演会が行われ、県外からも多くの人が訪れた。

つくば芸術祭は芸術系サークル連合会の有志が運営し、芸術を通して地域との交流を図る。「ファンクラブ」「アカペラサークルDoo・World」など音楽サークルによる発表や、写真部・及び書道部などの作品展示が行われ、春のつくばを彩る一大イベントとなった。

中村佑介さんが講演

講演会
今年の目玉企画は、イラストレーター中村佑介さんの講演会。中村さんは人気ミステリー小説「謎解きはディナーのあとで」(東川篤哉・著)の書籍カバーから、ロックアーティスト「アジアン・カンフー・ジェネレーション」のCDジャケット、教科



上=会場で披露された中村さんのイラスト
下=自身のイラストについて語る中村さん(右)

中村さんは、自身の経歴やイラストレーターとしての意識の持ち方など、ユーモアを交えて講演した。消費者はイラストを、作品の構成や技術より、どれだけ手間と時間をかけているのかで評価する。だから自分が寧ろ仕事を速く終わらせるように心がけた。

講演後、中村さんは「講演会には普段芸術に関わらない人も多く参加していたので、専門にとらわれない自由な質問が出て面白かった。講演を聞いた人が楽しかったと思うと嬉しかった。」「有名の中村さんだから、イラストに対する考え方を直接聞くことができ、ために「12面に関連写真」



学生たちがモデルとなったリコシェのショー

学生製作の衣装披露 デザイナー・モデルとの交流も

ファッションサークル「RICOCHET」(リコシェ)によるファッションショー「RICOCHET」は「水切り遊び」などの意味を持つフランス語。水切り

遊びのような弾む気持ちで「RICOCHET」が行われた。イメージし、子ども心を忘れるにファッションを楽しむ「水切り遊び」などの意味を持つフランス語。水切り装のデザイン、製作、コーディネートなどで活動している。同ショーは「銀河ステーション」「Rose」などの4シーンで構成され、部員はそれぞれのシーンをイメージした衣装を製作した。当日は学生が、モデルとして衣装を華麗に披露。蛍光塗料を用いた衣装を暗闇の中で浮かび上がらせる演出や、ショー直前の舞台裏を映した映像の紹介など、工夫に富んだ内容で観客を魅了した。ショーの終了後には、観客が部員やモデルと交流する時間も設けられた。

「Rose」の衣装を製作した椎名美季さん(社会学類2年)は「1月からショーの準備を続けてきた。自分の作った服をモデルに着てもらって感動した」と話した。(新田萌夏、12面に関連写真)

屋内外で作品展示 「筑波嶺の竜神」注目集める

芸術系教員らの作品展「交差する表現-構成専攻の現在」が、4月1日から6月1日まで大学会館アトリウム及び芸術系ギャラリーで開かれている。筑波大学芸術系の構成専攻は総合造形、クラフト、構成、ビジュアルデザインなどの4領域に分かれている。回展はこれらの領域の紹介や、研究成果を発表する作品展。大学会館アトリウムでは、所属教員の紹介や、東日本大震災復興支援活動「創造的復興プロジェクト」の報告が行われ、芸術系ギャラリーでは構成専攻の教員11人が作品を出展した。特に来場者の注目を集めたのは、國安孝昌教授(芸術系)の「筑波嶺の竜神」。丸太と陶ブロック



國安教授の作品「筑波嶺の竜神」

を積み重ねた全長10メートルの作品で、屋外に展示すること、空間展示の可能性を模索している。会場を訪れた女子学生は「これも個性的な作品だが、『筑波嶺の竜神』に圧倒された。構成には色々な表現方法があると分かって面白かった」と話した。(望月麗)



アコースティックギターを演奏する部員

ギターと歌声で魅了 弾き語り

4日にはアイアイモール前広場(つくば市吾妻)で弾き語りクラブ「アンブラグッド」の部員によるコンサートが行われた。スピッ

スティックギターに合わせた味わい深い歌声が会場に響き渡った。

同クラブの女子部員は「緊張していたが、たくさん来場者に囲まれて楽しく演奏することができた」と話した。

つくば芸術祭実行委員会副委員長の横内碧さん(日3年)は「昨年10月、そこから委員会を立ち上げ、準備を行ってきた。委員会のメンバーを各サークルから募ったため、仕事の振り分けや指導に苦労したが、昨年よりも来場者が増えてよかった」と話した。



辻雄一郎

社会には、多様な価値観をもった個人が共生しています。大学で学ぶ「自由」には二つの意味があります。一つは、自分の受け入れられない他者の生き方を尊重する、違いを認めるとい意味です。もう一つは、多数者の常識に押しつぶされる、たった一人の、かけがえない生き方を守ることです。

自分の思い込みに気付く 20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学 集中講義

著者 高遠裕子
ティナ・シーリグ

自分の思い込みに気付く。20歳のときに知っておきたかったこと。スタンフォード大学 集中講義。

存在しないのです。いま大学で学習していることが即、社会で役に立つとは限りません。いま必要だ、と思って学んでいる科目が必ずしも将来、役に立つとは限りません。私たちは先の見えない変化の時代に生きています。「生きること」リスクとは裏腹です。大学で何を、そして、なぜ学ぶのでしょ。うか。

自分の予想を裏切る生き方に触れると、若い大学生はおびえるかもしれませんが、自分の正義ではありません。自分の正義では理解できない生き方には、人生経験の浅い私たちが、恐怖を覚え、戸惑い、ひるみ、認めたくない。

自分が社会に活かされたら素晴らしいでしょうが、大学に在学している間、「学生」個人のできることは限りなく小さいでしょう。

しかし、無力感を感じ、越え、小さな一歩を私たちが踏み出したとき、社会の大きな流れの一つを形成しているのかもしれない。

この本は、スタンフォード大学のティナ・シーリグさんが執筆したものです。私自身が20代のときに読んで、いけば、何かしら生き方が変わったかもしれないと思っただけです。

「いま、手元に5ドルあります。2時間です。ただ増やせと言われたら、みなさんはどうしますか?」

筑波大生は、この設問をどのように解くのでしょうか。私たちの目の前の考え方が思い込みや既成の価値観にとらわれていることに、ハッと気付かされる本です。私が18歳のとき、筑波大学で憲法や行政法を研究している今の自分を想像するからいませんでした。(阪急「ミニエッセイ」)

(人社系・准教授)

催事

吹奏楽団第71回定期演奏会

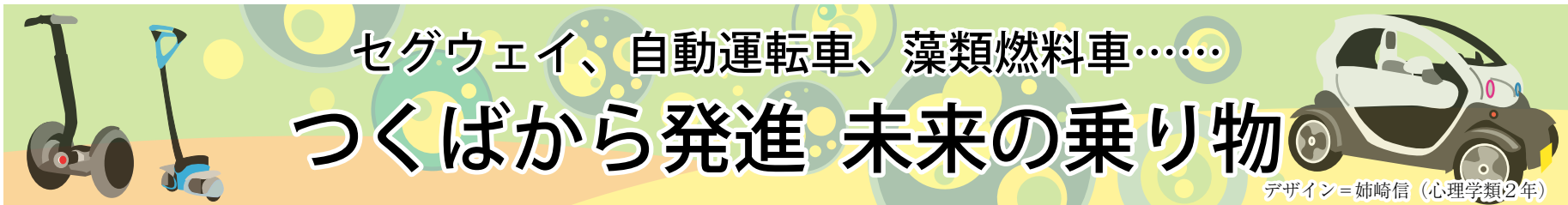
筑波大学吹奏楽団第71回定期演奏会が6月14日(土)にバホール(つくば市吾妻)で行われる。曲目は1部「トリトン」他、2部「ミュージカル」レ・ミゼラブルより、他、の2部構成。

15時開場、15時30分開演。

チケットは一般1100円、当日券600円。高校生以下は無料。

チケット予約・問い合わせ0800-930303-3675(担当:河田) / usb_inquiry@hotmail.com

詳細 http://sound.jp/usb (筑波大学吹奏楽団公式ホームページ)



セグウェイ、自動運転車、藻類燃料車…… つくばから発進 未来の乗り物

デザイン=姉崎信(心理学類2年)

つくば市では日本で唯一、立ち乗り型2輪車セグウェイの公道走行実験が行われている。また1〜2人乗りの小型電気自動車や、藻類からできたバイオ燃料で走る自動車など、さまざまな「未来の乗り物」の研究が進んでいる。将来、私たちはどのような乗り物を使っているのか。つくば市の事例から、乗り物の将来像を探る。(鈴木拓也)人文文学類、富田慎二(日本語・日本文化学類、井口彩、林健太郎、平嶋健人、森脇慎二(社会学類))

地球に優しい交通手段

超小型モビリティ

つくば市は国土交通省の認可を受け1月から小型電気自動車「超小型モビリティ」の実証実験を行っている。このような取り組みは横浜市など全国18の都市で実施・検討されている。超小型モビリティはコンパクトで小回りの利く1〜2人乗りだ。1人乗りは「原動機付自転車」として公道

日本で唯一の公道実験

モビリティロボット

モビリティロボット。聞き慣れない言葉だが、人の移動を助ける「搭乗型」のロボットだ。電動立ち乗り2輪車「セグウェイ」が代表例で、2011年に内閣府がその「実験特区」に指定したつくば市では、日本で初めて「モビリティロボット」に公道で乗ることができるようになった。モビリティロボットは時速10キロ以下で走るのが特徴。低速なので危険性が少なく、電動で小回りも利くという



産業技術総合研究所のマイクロモビリティ

「通勤で使えるか」調査

つくば市に最も多くあるモビリティロボットがセグウェイだ。市内の研究機関などを合わせると37台あり、筑波大学も2台保有している。今回は筑波大の持つセグウェイに乗ってみた。セグウェイは体の重心を傾けることで移動する。体を前に傾けると前進、後ろに傾けると後退やブレーキの役割を果たす。しっかりと前を向いて運転することがコツだ。



セグウェイを体験する本紙記者

乗ってみて最初に難しく感じたのが止まることだ。その場で360度回ること。ただ、ゆっくりと前進する。かたよりの回転してしまふ。勢を保たないといけない。また、バランスをうまく取らないと左右どちらかに倒れる。セグウェイの操作指導をして、乗る。セグウェイは米の発明家を中心に開発された。2001年の発表後、「人形の移動の形をさまざまな画期的製品」と称賛され、米大統領(当時)が購入するなど世界中で話題となった。パリでは観光客向けのセグウェイツアーが人気を呼んでいる。



つくば市で使用される「超小型モビリティ」

バックミラーやシートベルト、エアバッグなどの安全対策も十分で、安心して走行できた。つくば市のスマートシティ推進課によると、超小型モビリティは、一般的なガソリン車と比べ約6分の1のエネルギーで走行可能。その普及で、2030年を目標に地球に優しい交通スタイルの「環境モデル都市」を目指す計画だ。同課の小松愛実主事は、老若男女問わず安全に使用でき、環境にも優しい移動手段として超小型モビリティを提唱していきたい」と話した。

東京五輪で実用化も

自動運転車

つくば市に日本自動車研究所(JARI)の研究施設があるのを知っているだろうか。自動車産業の発展に向け技術開発を行う組織で、その中で注目されるのが人間がハンドルを握らなくても車がセンサーやカメラで状況を把握する「自動運転車」。JARIでこの技術の開発を担当する高度道路交通システム(ITS)研究部の谷川浩部長に自動運転車の可能性や、車社会の将来像について聞いた。

自動運転技術が採用されている。また、高速道路を自動で走るトラックの開発も進む。将来的には数台のトラックが数分間隔で「隊列」を組んで進むことを想定しており、燃費向上や、渋滞の緩和が期待されるといふ。また、東京オリンピックが開催される2020年をメドに、高速路線バスの自動運転化も検討されている。高速道路の専用レーンやバスが自動で走るもので、オリンピック選手などの移動手段として活用が考えられている。

谷川部長によると、自動運転車の開発で考えなければならないことは、どのような目的を持つ車を開発するか、ということだ。例えば、「飲酒しても、家まで送り届けてくれる自動車」と「荷物を持って帰ってくるトラック」では、必要や開発コスト、技術などが大幅に異なってくる。谷川部長は、技術開発には「何のために」という目的が明確にないと、誰かがコストはいくらか……などのバランスを考へる必要があると指摘。自動で家まで送迎してくれる自動車が欲しいとよく言われるが、それに数千万円払う人は少ない。需要を考慮した上で乗り物は開発しなければならぬ」と話している。

自動運転技術で一番難しいのは、機械に起こる判断を正しくさせることだ。谷川部長は「人間ならば、不意に道路に飛び出してくる歩行者」を認識する「維持管理車両」だ。ト

自動運転は一部で実用化されている。その一例が、近畿・中部地方を結ぶ日本高速道路のトンネル内の照明を清掃する「維持管理車両」だ。ト



トンネル内を自動で走行する維持管理車両

てくれた広報室の鈴木保シニアスタッフは「筑波大は非常に多くの学生がいるので、時速約10キロの最高速度は自動車より少し遅いくらいだが、乗っていると速く感じる。最も驚いたのが安定感だった。数秒の段差を超えても全く揺れない。2つのタイヤしかないのに、その場に立ち続けることができる安定感が不思議だった。筑波大では高校生のキャンパスツアーの時や、昼休みに石の広場でセグウェイの試乗会を開催している。セグウェイの操作指導をして、乗る。



ハンドルの「真ん中」に

未来車のデザイン



李昇姫 准教授

これからの乗り物のデザインはどうなるのか、また、どうあるべきなのか。韓国や日本の企業など、約10年、自動車のデザインに携わってきた李昇姫准教授(芸術系)に聞いた。

■使いやすいデザイン
同准教授は「乗る人の使いやすさを考えた自動車のデザインすべきだ」と主張

「乗る人の使いやすさを考えた自動車のデザインすべきだ」と主張

同准教授は「乗る人の使いやすさを考えた自動車のデザインすべきだ」と主張

動物のサイをイメージに

学生の発想は

筑波大にはカーデザインのコンテストで入賞した、新たな乗り物を考案し続ける学生がいる。清谷勇亮さん(芸専4年)と紅林駿介さん(同4年)に聞くことも2人のデザインを紹介する。

【清谷勇亮さん】
清谷さんは昨年、日本全国の大学・専門学校生が参加する「学生デザインチャレンジ」で2位を獲得した。受賞作は動物のサイをイメージにした重量感のある電気自動車「写真右」。

【紅林駿介さん】
紅林さんは2つの前輪と1つの後輪を持つ、2台のバイクを連結させたような形の新しい乗り物「DUAL BANKER」を考案した。2人乗りのバイクだが操縦は1人で済ませたいという。今はまだ構想にとどまるが「新しい乗り物をデザインすること、乗る人に新しい体験を提供していきたい」と紅林さんは語る。

走行実験は成功

バイオ燃料の自動車

筑波大では、藻類をもとに作り出したバイオ燃料を用いた自動車の実験を行っている。3月には、茨城県つくば市、筑波大が共同で進める「つくば国際総合戦略特区」のプロジェクトの一環として、公道実験も開始した。

国内初の試みで、筑波大の研究施設で作り出したこのバイオ燃料を市販の軽油に5%混ぜ、ディーゼル車の燃料として使用。藻類は光合成で成長するため、同燃料は二酸化炭素削減効果が期待される。だが、問題

は、現行の法律では藻類をもとに作り出すような燃料の恒常的な使用は想定されておらず、使えないことだ。つくば市科学技術振興課の中山秀之さんは「現在、実用化に向けて関係省庁と協議を進めている。国は藻類から燃料ができることを想定していなかったようだ」と話す。

藻類をもとに作り出した燃料では2008年、渡辺信教授(生環系)の研究チームが従来より10倍以上も炭化水素の生産能力が高いタイプの藻類を発見。炭化水素は重油に相当し、同教授の研究は、石油に代わる次世代エネルギーとして注目されていた。

3月には同プロジェクト



バイオ燃料を用いた自動車

さらには企業との連携が不可欠。将来的な事業化を目指すとしており、低コストでの藻類からのオイル抽出方法の開発を進めている」と話している。

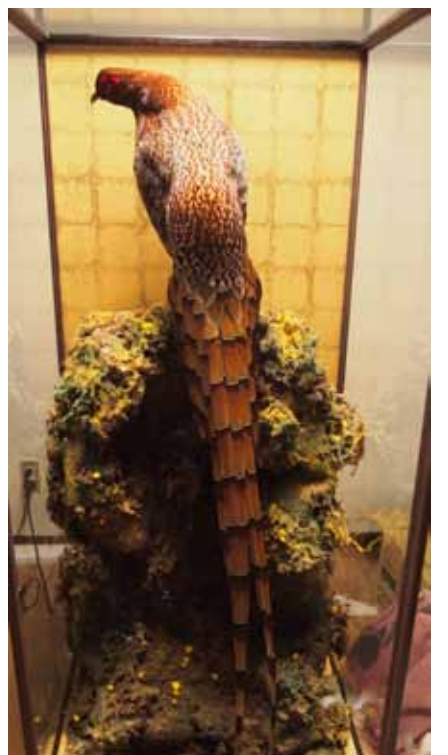
3月に行われた公道での走行実験では、筑波大本部から市内を約5時間走り、関係者による



【紅林駿介さん】

筑波自然図鑑

◇ヤマドリ◇



ヤマドリは、日本固有の鳥で、その肉の味は大変美味なことで知られている。深い山に住み、姿を隠すことがめづらぬ。2月の末、筑波山にて野生動物研究会の会員が雄のヤマドリの遺骸を発見した。貴重なもので、役(文・今田創二比文2年)の許可を得ては複製することになった。写真は、宮野真二生資4年、同)が引き起こされている可能性があるが、その原因がホルモンの影響で、動物の行動が変わることを考えれば、他人とうまく話せなかったり、初対面の人に極度の不安を感じてしまう原因も、ホルモンの働きによって説明できる可能性がある。小川教授は「人に人間関係の構築や維持にもホルモンのバランスが影響しているのでは、とも考えている。」

ホルモン研究は、応用可能性が高い。例えば現在、虐待やいじめ、育児放棄の改善にはカウンセ

怒ったり、不安になったり、私たちは人との関わりの中でさまざまな感情を抱き、行動しているが、これまでの研究で特定のホルモンの働きを調節することで、不安感が軽減するなどの、感情の変化が起こるかもしれないことが分かってきた。そんなホルモンと行動の関連性についてマウスを使って研究を続けるのが、小川園子教授(人間系)だ。

ホルモンは生物の体内のさまざまな部位で分泌され、体の維持に重要な役割を果たしている。例えば、成長ホルモンは脳下垂体前葉から分泌され、骨の生育や筋肉の成長に働く。だがこれまでのホルモン研究ではこれら生物の身体的な変化だけが注目されており、ホルモンによる行動や感情の変化には注目されていなかった。そこで、小川

妊娠・出産すると激しい攻撃行動を見せることに注目。マウスのホルモン分泌量を測定しながら行動を観察した結果、プロゲステロンと呼ばれるホルモンによって攻撃行動

ホルモンバランス
ホルモンで変わる行動や感情
カウンセリングへの応用に期待

ホルモンバランスとマウスの行動との関係を解析する小川教授



全日本柔道選手権大会

永瀬が3位入賞の快進撃

デザイン=姉崎信(心理学類2年)



3年前の王者高橋に果敢に挑む永瀬(右)

【日本武道館(東京都千代田区)で井口彩II社会学類2年、森脇慎II同2年、体重無差別で柔道男子の日本一を決める全日本柔道選手権大会が4月29日に行われ、永瀬貴規(体専3年)が3位に入賞した。また黒岩貴信(同3年)は1回戦敗退に終わった。
4月の体重別選手権で優勝し、8月の世界選手権(ロシア・チェレピンスク)81kg級代表に内定している永瀬は初戦となった2回戦で100kg級、3回戦で90kg級、準々決勝では100kg級の超級の選手に勝利。準決勝で優勝した王子谷剛志(東海大)に敗れたものの、重量級の選手を次々に破る快進撃を見せた。

重量級の選手に3連勝

「初戦の相手のことしか考えていなかった」。そんな言葉は裏腹に永瀬は自身より大柄な選手に3連勝。準決勝まで駆け上がり、武道館に詰めかけた観客をわかせた。
2回戦の相手は熊代佑輔(ALSOK)。4月の体重別選手権の100kg級で優勝している階級上の実力者だが、「自分の間合いで足技を使って攻める」ことを考えて試合に臨んだ。
考え通りに、序盤から間合いを詰めてくる相手の攻撃をかわし、不利に見える体勢から「気がついていたら出ていた」という足で小外刈り。一本勝ちを収めた。
3回戦を指導2つによる優勢勝ちで突破し、迎えた準々決勝は3年前の全日本選手権王者、高橋和彦(新日鐵住金)。40kg以上の体重差がある相手

記者の目
「体が思うように動かなかった。何がいつもとは違った。初戦敗退した黒岩貴信(体専3年)に話を聞くと、そう答えた。毎年4月29日に開催され、体重無差別の全日本選手権は「出場することも難しい」といわれる、柔道日本一を決める大会だ。多くの選手は優勝どころか、出場が目標になってしまふ。そして体重無差別のため、パワーで勝つ重量選手が優位に立つことが多い。

世界選手権へ弾み
永瀬の持ち味は自分の間合いをしっかり保ち、簡単には相手の得意な形にさせない強固な守り。しかしそんな厳しい舞台でも永瀬貴規(同3年)は躍動した。出場選手の中で181cm、81kgの永瀬よりも軽い選手はわずかに3人。その3人と対戦することもなく、自分が一瞬で勝負をつける速さを見せた。
堅い守りの一方で、永瀬の攻撃面の最大の武器が「瞬で勝負をつける速さ」を表現する。
準備。永瀬について黒岩は「地に足がつかない、安心感がある」とその強さを表現する。
「常に考えて組み合っている。非常に頭のいい選手」と語るのは講道館職員の本間健司さん。今大会でも自分の形を崩さず、相手のスキを逃さない、試合巧者が際立った。
準決勝で敗れたが、8月の世界選手権(ロシア・チェレピンスク)に向けての弾みをつく結果だ。今大会でも見せた得意な足技でチェレピンスクに日の丸を掲げることが出来るか。筑波大学、そして日本柔道の代表として永瀬の世界一に向けての挑戦は続く。(森脇慎)

秋本・小野は3位入賞
全日本選抜柔道体重別選手権大会が4月5-6日に福岡国際センター(福岡市博多区)で行われ、男子81kg級の永瀬貴規(体専3年)が初優勝し、8月の世界選手権(ロシア・チェレピンスク)の代表に選ばれた。また、73kg級の秋本啓之(了徳寺学園)・平成23年度体大育修了、100kg級の小野卓志(同・平成23年度同)が3位に入賞した。
永瀬は初戦、海老泰博(旭化成)に逆転勝ちし、準決勝で丸山剛毅(天理大)に勝利。決勝では、長島啓

た番狂わせた。だが準決勝では、王子谷に開始から一分足らずで一本負け。不意を突かれた形で見え始めた。高橋が強引に技をかけようとしたところを浮き落として返し、優勢勝ち。「返しは得意。そう言いきる永瀬だからこそできる」(12面に関連写真)
「前平持ちでたえられ、後半は勝負に出られる。自分の方が若く、体力がある」と落ちてきていた。力をつけてくる高橋に自分の間合いを保ち、試合開始からおよそ3分。疲れが見え始めた高橋が強引に技をかけようとしたところを浮き落として返し、優勢勝ち。「粘り強く、相手の嫌がる柔道ができた」と振り返り、世界選手権への収穫とした。
(12面に関連写真)

野球
首都大学野球春季リーグ戦
最下位と低迷
打撃陣の調子上がらず
首都大学野球春季リーグ戦が4月12日から大田スタジアム(東京都大田区)などで行われ、筑波大学は打撃陣の調子が上がらず、5月15日現在、2勝8敗で8チーム中最下位と低迷している。
打撃陣が不振にあえぐ



先制の左中間三塁打を放つ水野

「打線を組み替えながら得点を奪いたい」(川村卓監督)と、5月4日の桜美林大学戦。だが、この試合も投手が噛み合わず、3-4で敗れた。
「状態が上がってきている」(川村監督)という投手陣は、左腕の西島隆成(体専3年)が先発。西島



初戦での熊代と永瀬(右)の対戦

第15回東日本大学セvens選手権大会
流通経済大を破り3連覇
稗田が逆転トライ
第15回東日本大学セvens選手権大会が4月13日、秩父宮ラグビー場(東京都港区)で行われ、筑波大学が3連覇を果たした。同日、4月6日に行われた、本大会が参加する7人制ラグビー大会「YC&AC JAP AN SEVENS」の準決勝、試合終了直前に逆転のトライを決めて勝利。決勝で同大に負けた雪辱を晴らした。
決勝では、前半3分に山本浩輝(体専4年)がトライし先制する。だが、6分と前半終了間際のハーフタイムにトライを許し、7-12で前半を折り返した。後半開始早々の1分、水



ディフェンスを振り切る筑波大選手

上彰太(同4年)がトライを決めて逆転。しかし、流通経済大の猛攻を受け、再度逆転のトライを決められる。それでも筑波大は試合終了間際の9分、相手のキックしたボールを竹中祥(同4年)が奪い、主将の山下(同4年)、亀山宏大(同3年)にボールをつなぐ。最後は稗田優志(同3年)がトライを決め、21-17で接戦を制した。
試合後、山下は「1年生の時から出場してきたこの大会で3連覇できてうれし」と語った。(富田慎二)

関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 女子が好調、現在第2位



提供= TSA

中盤で東海大から巻き返し 「相手を見極め」好プレー連発

関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦が4月12日、筑波大学から5月25日にかけて、国士館大学多摩キャンパス体育館(東京都多摩市)などで行われている。筑波大学は5月15日現在、女子が好調を維持し6勝1敗で8チーム中2位、男子は6勝2敗で10チーム中3位に

安定したプレーを見せる田村

なっている。女子は5月3日に日本女子体育大学体育館(東京都世田谷区)で東海大学と対戦。試合中盤以降に流れをつかみ24-18で勝利した。序盤は東海大のペースで試合が進む。だが、試合中盤にセンターの岩崎成美(体専2年)が体を張ったカットインプレーで得点を決め、筑波大に流れを引き寄せた。その後は「相手の動きを見極め、焦らず冷静にプレーできた」(加納明帆主将 同4年)と好プレーを連発。左サイドの田村美沙紀(同2年)の安定したディフェンスや、ゴールキーパー関澤あすか(同3年)の好セーブなどで守りきり、接戦を制した。今季のリーグ戦について加納は「選手が各自の役割をしっかりと把握し、チームに貢献しようという意気込みでいる。納得のいく試合がしたい」と話した。(望月麗)



直転の演技を披露する松浦

日本が初優勝 堀口・高橋が好演技を披露

第7回世界ラトチームカップ
トチームカップが4月25-27日にドイツのベルリンで行われ、日本が初優勝を果たした。団体戦でドイツ以外(体育2年)、高橋靖

彦(平成24年度体育修了)が日本代表として出場し、好演技で世界一に貢献した。日本は試合の序盤、思うように点数が伸びず、第3ラウンドが終わった時点で最下位。だが、第4ラウンドで堀口が会心の演技で高得点を記録し一気に2位に浮上した。どの国にも優勝のチャンスがある僅差で迎えた最終の第6ラウンドでは高橋が完璧な直転の演技を見せ、優勝を決めた。松浦は「世界大会への参加は今回が2回目。個人的には多くの課題が残ったため、今回先輩方や海外の選手から学ぶことを生かして次の大会に向け頑張りたい」と語った。(油布知夏)

第90回日本選手権水泳競技大会
女子50背 諸貫が3位
昨年からの順位落とす
水泳競技
第90回日本選手権水泳競技大会が4月10-13日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われ、女子50背泳ぎで諸貫真美(体専4年)が3位に輝いた。スタートに失敗し、序盤からトップに差をつけられた諸貫は、25メートル地点から強い泳ぎを見せた。28秒57の自己ベストでフィニッシュするも、「自分の最高の泳ぎができるように準備してきたが、(2位だった)

第88回関東大学サッカーリーグ戦
勝ち点2で最下位
得点力不足に苦しむ
サッカー
第88回関東大学サッカーリーグ戦が4月5日に開幕し、味の素フィールド西が丘(東京都北区)などで行われている。筑波大学は5月15日現在、第8節を終えて6敗2引き分け、勝ち点2で最下位になっている。7試合で5点と得点力不足に苦しんでいる筑波大は5月10日、それまで7試合で5失点と堅守を誇る明治大学と対戦。1-3で敗れ、



ゴール左側からシュートを放つ車屋

リーグ戦初勝利は挙げられなかった。試合開始直後の前半3分、明治大にオウンゴールKの有賀陽平(体専2年)で先制を許す。同28分には明治大の右サイドバックにドリブルで突破される。GKの守備が崩れる。車屋は「ゴール前へのパスを中であらまされ、右サイドから攻め込まれ得点を許した。その後は車屋紳太郎(同4年)がゴール左側からシュートを放った以外には目立ったチャンスを作れず敗戦。この試合でも長いトンネルからは抜け出せなかった。試合後、車屋は「個の力がないことがこの不振の原因(だと思ふ)。今はどんな形でもいいので、勝ちにこだわりたい」と話した。(森脇慎)

筑波大はコーナーキックのこぼれ球を奪われると、右サイドから攻め込まれ得点を許した。その後は車屋紳太郎(同4年)がゴール左側からシュートを放った以外には目立ったチャンスを作れず敗戦。この試合でも長いトンネルからは抜け出せなかった。試合後、車屋は「個の力がないことがこの不振の原因(だと思ふ)。今はどんな形でもいいので、勝ちにこだわりたい」と話した。(森脇慎)

記録ファイル
女子サッカー 第20回関東女子サッカーリーグ(4月12日から、鹿島ハイイツ他)筑波大2-1関東学園大▽筑波大4-0日テレメニナ▽筑波大0-1浦和レッズ▽ダイエーモンスレディーズユース▽筑波大1-4早稲田大◆オリエンテering 第40回全日本オリエンテering大会(4月27日、菅平高原)【女子】ジュニア選手権クラス▽宮田優花(心理3年)1時間03分57秒▽7位



U-19 ハンドボール日本代表

徳田新之介(体専1年)

チームがまとまらない、大事な試合で勝てない。そんな苦しい状況でも、ハンドボールが嫌になることはなかった。ハンドボールが楽しい、強くなって優勝したいという思いの方が強かったのだ。顧問の先生や母にもアドバイス

得点力の高さを武器に

ハンドボールと出会うのは、小学2年生の時。実業団の選手だった母親が作った少年チームに入団した。当初から才能を発揮したが、同時に野球の少年団チームにも所属していた。「あくまで野球が第一で、ハンドボールはおまけみたいなものだった」と振り返る。しかし、攻守の切り替えが早くスピード感のある

らエースとして活躍。2年では優勝したインターハイでは優勝し、得点主の称号も得た。純粋に「楽しい」という気持ちで続けてきた。実践練習ができないう間は、筋トレや仲間との練習の分析に励んだ。外から仲間プレーを見て初めて気付くこともあり、決して無駄な期間で

まならない、大事な試合で勝てない。そんな苦しい状況でも、ハンドボールが嫌になることはなかった。ハンドボールが楽しい、強くなって優勝したいという思いの方が強かったのだ。顧問の先生や母にもアドバイス

裸足で1時間歩き切る
発展途上国の暮らしを考える

靴を賣うお金がなく、裸足で生活する発展途上国の人々の暮らしを考えるイベント「One Day Without Shoes」が4月29日つくば市で行われた。同イベントが県内で開催されたのは初めて。筑波大学生ら80人の参加者は、中央公園(つくば市吾妻)から中央図書館前の石の広場まで約3.5キロを裸足になって歩いた。

中央公園に集合した参加者は4班に分かれ、談笑しながら約1時間かけて石の

広場まで裸足で歩いた。石の広場では、参加者の足に絵の具をつけて、イベント名が書かれた横断幕の上に足形の模様を付けるイベントを実施。参加者は泥や絵の具で足を汚しながら、靴を履くことができない発展途上国の現状に思いを馳せていた。

同イベントは米国の靴メーカー「TOMS」が実施しているイベントの一環で、毎年4月の同一日に世界約100カ所以上の都市で開催されている。大学構

内でも同イベントが開かれるのは日本初。イベントに参加した増田康介さん(教育2年)は「裸足だと、ずっと下を向いて歩いてしまった。痛いと感じる所も多かった。途上国だとどんな路面状況なのか気になった」と話した。

イベントを企画した筑波大の学生団体「World Fut TSUKUBA」代表の植竹渉さん(国総3年)は「参加者が多くうれしかった。このイベントのように、参加しやすい形



談笑しながら裸足で歩く参加者

地域活性化や国際協力に貢献するイベントを企画していきたい」と語った。

イベントに参加したTOMS日本代理店のシンフォニー株式会社代表の矢澤哲代表取締役は「長い距離を裸足で歩いた経験は記憶に残るはず。発展途上国の現状に取替はできない。筑波大学のプロジェクトチームは今後も受信作業を続ける予定だが、その一方で2号機の開発も検討されている。

「結」は、筑波大システム情報系が立ち上げた学生中心のプロジェクトによって企画・製作され、2月28日に種子島宇宙センター(鹿児島県)から打ち上げられた。しかし、衛星内部の温度などを伝える電波が地上に届かない状況が続いている。

プロジェクトチームのメンバーは、「結」の電波受

「結」は、筑波大システム情報系が立ち上げた学生中心のプロジェクトによって企画・製作され、2月28日に種子島宇宙センター(鹿児島県)から打ち上げられた。しかし、衛星内部の温度などを伝える電波が地上に届かない状況が続いている。

プロジェクトチームのメンバーは、「結」の電波受

「最近考えること」議題に白熱した議論楽しむ

筑波大学公開講座「哲学カフェ」が4月27日、筑波大学東京キャンパスの文京校舎で行われた。哲学カフェは人文社会科学系研究科哲学・思想専攻の教員が毎月開催しているもので、参加者と「日頃気にはしているが深くは語り合えない話題」を討論する。今回、会場には学生や社会人など約20人の参加者が訪れた。

講座は、参加者が始めの自己紹介で発表する「最近考えていること」をもとに、話し合いを進める。今回は、会社の先輩に深夜にメールを送ったところ、非常識だと怒られた、という参加者の発言から、自分の価値観と世間の価値観が異なる場合、どちらに従うべきか議論した。

さまざま意見が飛び交う中、「集団の中で恩恵を受けて生きているのであれば、義務として集団の価値観に従うべき」との意見に参加者は賛成派と反対派に分かれ、自分の知識や経験を元に考えをぶつけ合った。白熱した話し合いは約3時間以上続き、最後には一人一人が今回の講座を通して考えたことを述べた。

参加した男性は「初めて参加したが、皆がどんどん発言し、議論が盛り上がり面白かった。またぜひ参加したい」と語った。

(油布知夏)

アヒルポット「博士号」
松美池で「安全確認」

デザイン=姉崎信(心理学類2年)



松美池で行われた安全確認実験の様子

5月から運用開始の見込み

第一エリアの松美池に昨年10月突如、現れたアヒルポット「博士号」。その存在はツイッターで学内外に拡散し、「一躍人気者」になった。その後11月には、大学公認の学生活動「つくばアクションプロジェクト」(T-ACCT)の一つとして、博士号に自由に乗船できることを目指す団体が発足。大学側と話し合いを行うなど、博士号の「推進」に向け活動を行ってきた。その一環として4月23日、松美池で博士号の「安全検証実験」が実施された。

(添島香苗II生物学類2年)

実験には、T-ACCTの代表者・登天遊さん(CS2年)ら数人の学生が参加し、学生生活課の職員とT-ACCT専任教員らが立ち会った。

利用者が池に落ち、博士号が利用者に覆いかぶさった際に、安全に脱出できるかを検証する実験では、等身大のマネキン人形を用意。松美池に浮かべた博士号の下にマネキン人形を差し込み、人形がその下の水中を通り抜けられるかどうか検証した。この際、博士号が2人乗りであることを踏まえ、2人とも水中に落ちた状態と、1人が船内に残っている状態を想定し、それぞれ3回実験を実施。各回とも、マネキン人形は博士号の下を通り抜けることができ、関係者の顔には安堵の表情が浮かんだ。

昨年12月、T-ACCTのメンバーは博士号の「推進」に向け、筑波大学側と話し

合いを実施。その際、博士号のメーターが水深60センチ以上の水中での使用を推奨する一方で、松美池は約50センチで、推奨される水深に届かないことが分かった。このため、博士号が松美池で座礁するなどの危険がないかの安全性を確かめるため、今回の実験が決まった。

登天遊によると、学生や教職員が自由に博士号に乗れることで、気分転換や運動不足解消などの効果を期待しているという。実験に立ち会った大久保智紗T-ACCT専任教員は、「適切にリスク管理ができるよう手助けしている。実現したら面白いと思う」と話した。

登天遊は「現在はポット(博士号)の管理方法を考えている。大学側との協議が整い次第、5月にも運用を開始したい」と話している。アヒルポット「博士号」を持ち込んだ当事者はまだ判断していない。

私は昨年9月にG30のプログラムで日本に来ました。そしてこれまで、文化の違いをいくつも実感しました。その中で特に印象的なのは、日本人は誰に道を聞かれても礼儀正しく対応することです。私は一人の中年の日本人女性とのやり取りを通して、このことを学びました。日本に来て2日目、日本に来て2日目、新生活の準備を手伝ってくれる家族と「研究セ

ンター」に行く途中で道に迷ってしまいました。そこで、コンビニの前で野菜を仕入れていたその女性に、道を尋ねることにしました。私たちが泊まっているのは家族が宿泊する「研究センター」の発音だけ。「右や左」「真っ直ぐ」という単語も知らなかったのが、ポディランゲージだけでコミュニケーションをすましかありませんでした。

そのあと、とても感動したことがありました。私たちがその日にまだ、道に迷ってしまっていたので、日暮れ時のことですが、道には誰もおらず、もちろん標識もありません。教えることで利益が得られるわけではなく、女性のような親切な人、今までも私が住んだら訪れたりした国々にはいませんでした。それらの国では、迷っている人に道を教える必要はありません。教えることで利益が得られるわけではなく、

女性にもう一度親切に、そして愛らしい笑顔で道を教えてくれました。その上、トラックでゆっくり私たちの後をついてきてくれました。この女性のような親切な人、例えは、バイクが衝突事故を起こした時、私の生まれた国では、まず相手のどの言葉が飛び交います。しかし、日本人が最初に言うのは「すみません」。このように日本人は礼儀正しく親切です。だから、これから日本で経験することが本心に楽しみます。そして、もっと、留学生と日本人学生の両方と一緒にいられる時間を過ごしたいです。(生物資源学類2年 原文は英語II 台湾出身 日本語訳・鈴木拓也II 人文学類3年、イラスト・島田文II芸術専門学群4年)

礼儀正しい日本人

女性にもう一度親切に、そして愛らしい笑顔で道を教えてくれました。その上、トラックでゆっくり私たちの後をついてきてくれました。この女性のような親切な人、例えは、バイクが衝突事故を起こした時、私の生まれた国では、まず相手のどの言葉が飛び交います。しかし、日本人が最初に言うのは「すみません」。このように日本人は礼儀正しく親切です。だから、これから日本で経験することが本心に楽しみます。そして、もっと、留学生と日本人学生の両方と一緒にいられる時間を過ごしたいです。(生物資源学類2年 原文は英語II 台湾出身 日本語訳・鈴木拓也II 人文学類3年、イラスト・島田文II芸術専門学群4年)

留學生の目

ロセンナ・リン

私は昨年9月にG30のプログラムで日本に来ました。そしてこれまで、文化の違いをいくつも実感しました。その中で特に印象的なのは、日本人は誰に道を聞かれても礼儀正しく対応することです。私は一人の中年の日本人女性とのやり取りを通して、このことを学びました。日本に来て2日目、日本に来て2日目、新生活の準備を手伝ってくれる家族と「研究セ

筑波大生の駐輪マナー

市民から苦情多数

学生生活課によると、最近の市民からの苦情では、「夜間に無灯火で走行して」「交差点などで飛び出してきて危険だ」「飛び出してきて危険だ」などが目立つ。また、筑波大生がつくば市内で放置した自転車についても警察から問い合わせが続いている。一方、学内では新学期開始後から通路をふさぐ形で駐輪するケースが多く、同課では「自転車が入り口をふさいでいて」「災害時などに避難できないような場所も多し」と警告。このほか、学内で自転車同士で衝突後、片方が逃走する悪質なケースもあったという。

学内では「不適切駐輪」

一方、駐輪場の確保では、大学は昨年、第一エリアなどスペースを拡張。だが学生生活課によると、建物の入り口から遠い駐輪場を使用せず、自転車ではいっばいの入り口付近に無理矢理駐輪するケースもあるという。つくば市では、「市民の自転車に対する意識を向上させたい」と同市交通政策課として4月から、「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(自転車安全利用条例)」を制定した。ヘルメットの着用や自転車への反射材装着のほか、簡易保険の加入を促す内容で、罰則規定はないが、交通法令の遵守を求めている。つくば市によると、同課)として4月から、「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(自転車安全利用条例)」を制定した。ヘルメットの着用や自転車への反射材装着のほか、簡易保険の加入を促す内容で、罰則規定はないが、交通法令の遵守を求めている。つくば市によると、同



駐輪禁止スペースに止まる自転車

市内に続き2番目。一方、つくば中央署によると、今年1月から4月までのつくば市内で発生した自転車事故は146件だった。齊藤藤嘉教授のグループが開発した「妖怪伝承を扱う街歩きアプリ」南千住百物語

妖怪伝承を扱う街歩きアプリ「南千住百物語」

東京都荒川区南千住を散策しながら地域に伝わる妖怪の物語を学べるスマホ向けアプリ「南千住百物語」を齊藤藤嘉教授(芸術系)のグループが地元NPO法人「千住すみだ川」と協働で開発した。アプリはiPhone専用で、誰でも無料でダウンロードできる。

開発者によると南千住には妖怪物語が多く、「南千住叫んだ」と当時の恐怖を語った。また「入学当初は馬乗りされ体を触られたが、無我夢中で足をけると男の体にあたり、男は逃げ出したという。女性は「男は面長でメガネをかけ、若かった」と話している。

女性によると当時、自宅から徒歩約5分のコンビニからの帰宅途中。コンビニは大通りに面し周辺は街灯も多いが、女性の自宅アパートに近づくと、街灯が少なくなる。付近に住む別の筑波大学の女子学生はこの周辺の道について「一日没以降は暗く、自転車でも通らないようにしている」と話していた。

被害にあった女性は「突然飛ばされた。何が起きているのか分からず『何ですか、何ですか』とひたすら届けるよう求めている。

妖怪の物語が表される仕組みは、特定の場所でスマホのカメラをかざすと、画面上にアニメ風の妖怪が現れ、その場に妖怪がいるかのような合成写真を撮ることもできる。また、物語だけでなく、南千住を流れる隅田川を舞台にした謡曲や琵琶の演奏を聴くことも可能だ。

活動を主導する市川寛也さん(平成25年度芸術専攻)は「今年度中に南千住の口頭伝承の妖怪物語についても取り上げ、最終的には99話まで物語の数を増やしたい」としている。また、iPhone以外の機種にも対応させ、外国人向けに多言語対応化するなど改良を続けていくという。

市川さんは「目に見えない妖怪を可視化することで、妖怪だけでなくその町の歴史や文化も見えてくる。そうして町に興味を持ってもらい、町おこしにつなげていきたい」と今後の展望を語った。

(油布知夏)



伝承が伝わる場所で撮影した写真

小中高生が筑波大生体験

子どもたちに大学の講義や最新の研究を紹介するイベント「キッズ・ユニバーシティ」が4月19日に開催され、小中高生が「筑波大生」として18の特別授業・体験ツアー! 展示を回った。

林悠助教(国際統合睡眠医学研究機構)による特別授業「睡眠のミステリー」では、睡眠のメカニズムを分かりやすく説明。林助教が「二度寝」の防止法など、睡眠についてのさまざまな知識を紹介すると、参加者は驚きの表情を見せていた。

「街灯欲しかった」

被害女性 事件の状況語る

路上わいせつ事件

筑波大学周辺の街灯がない道で、女子学生への路上わいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が増えている問題で、2012年夏に被害にあった筑波大学の元女子学生が本紙の取材に応じ、被害時の状況を語った。元女子学生の女性に幸いけがはなかったが、被害後、犯人に容姿が似た男性に恐怖心を覚えるようになったという。女性は「入通りのある道には街灯をつけてほしい」と求めている。

(街灯問題取材班)



女性が被害にあったのは午前0時ごろ。つくば市天久保の自宅アパートに入る直前、後ろからシャツのすそを引っ張られた。「友人か」とふり向くと、見知らぬ男がおり、その後、突

き飛ばされた。さらに仰向けに倒れたところを、男に馬乗りされ体を触られたが、無我夢中で足をけると男の体にあたり、男は逃げ出したという。女性は「男は面長でメガネをかけ、若かった」と話している。

女性によると当時、自宅から徒歩約5分のコンビニからの帰宅途中。コンビニは大通りに面し周辺は街灯も多いが、女性の自宅アパートに近づくと、街灯が少なくなる。付近に住む別の筑波大学の女子学生はこの周辺の道について「一日没以降は暗く、自転車でも通らないようにしている」と話していた。

被害にあった女性は「突然飛ばされた。何が起きているのか分からず『何ですか、何ですか』とひたすら届けるよう求めている。

「なんでも予防注射しなきゃいけないのかな?」

「体を守るため!」。5月10-11日に行われた「つくばフェスティバル」の一角で、学生の質問に答える子どもたちの明るい声が響いた。

サークル「つくばぬいぐるみ病院」は、地域の保育園や児童館を訪れ、子どもたちに医療に関する教育や、健康的な生活方法を指導する。サークル名の由来は、「ぬいぐるみ患者に立見した学習法(問診ロールプレイ)」。ぬいぐるみを使って子どもたちと「お医者さん

代表を務める青木明香里さん(看護3年)は「メンバーで苦業を共にすることがこのサークルの魅力。多くの人に私たちの活動を知ってほしい」と話す。

「子どもが好きなんです」。活動参加のきっかけを問うと、メンバーは口を揃えて答える。揺るぎない気持ちに、子どもたちが「楽しみながら」「健康や医療を学べるよう、メンバーの試行錯誤は続いていく。(新田萌夏)社会学類2年)

琴ちゃんせせ



公園にて張り込み中

動けなくなっちゃまったな...メシ買ってきてくれるか?

はい!

俺らのぶんは...えっ?

「なんでも予防注射しなきゃいけないのかな?」

「体を守るため!」。5月10-11日に行われた「つくばフェスティバル」の一角で、学生の質問に答える子どもたちの明るい声が響いた。

サークル「つくばぬいぐるみ病院」は、地域の保育園や児童館を訪れ、子どもたちに医療に関する教育や、健康的な生活方法を指導する。サークル名の由来は、「ぬいぐるみ患者に立見した学習法(問診ロールプレイ)」。ぬいぐるみを使って子どもたちと「お医者さん

子どもたちのために試行錯誤

立って話し合う。

「つくばフェスティバル」当日、ブースの中で白衣を着た子どもたちは、

子どもたちが好きなんです。活動参加のきっかけを問うと、メンバーは口を揃えて答える。揺るぎない気持ちに、子どもたちが「楽しみながら」「健康や医療を学べるよう、メンバーの試行錯誤は続いていく。(新田萌夏)社会学類2年)

Who's Who?

つくば市発のアイドルをプロデュース 長谷川慶さん(社工2年)



松美池前でほほ笑む長谷川さん

「全国を舞台に活動するのは、地域限定の大学生アイドルを創設したい」と話すのは、学生団体「Astaire(アステール)」の代表を務める長谷川慶さん(社工2年)だ。

CMでの作曲を手掛けたアロの作曲家に依頼している。SNSや大学周辺の飲食店、コンビニなど、15店舗以上で広告を出し、つくば市の大学、大学院、専門学校に通う女性を対象としてアイドルを募集しているが、メンバーは残念ながら現在まだいない。だが「アイドルを使って、学生、高齢者、社会人と年齢に関わらず、地域の人の交流を活性化させる」と意気込む。

アイドルで社会貢献を 地域住民の交流も目的

はふと、「自分でアイドルを創りたいのでは」と思い始めた。大学入学後、アイドルの創設という大きな夢を実現するため、長谷川さんはSNSを活用しベンチャー企業の社長や筑波大のOBを中心に30人以上と面会。多様なアドバイスをもらう中で「やりたいではなく、やるに変えよう」という大手商社に勤めるOBの助言が心に響き「将来は、今できることをやってみようと思った」と語る。

「歌って踊ることだけがアイドルの活動ではない」と語る長谷川さん。アイドルという親しみやすい存在を通して多くの人のつながりを生み出すのが目標だ。メンバーが集まり、アイドルグループが結成されれば大規模なコンサートと、学生や社会人、高齢者が交流するイベントを同時開催する構想もある。「つくば市には、やりたいことがあっても一歩踏み出せない学生が多い。アイドルを通じて人とつながることによって、きっかけが生まれ

編集後記

今回、取材・編集を通じて感じたキーワードは「つながり」です。LINE社の森川亮社長は「筑波大は卒業生のつながりが薄い」と語りました。1、2面で紹介した筑波大発の「ピジョン」には卒業生と学生を結びつける意図もあるのでしょうか。▼1面と2面の特集で取り上げた社会貢献プロジェクトは「大学」と「社会」のつながりを作るものです。「大学周辺で生活が充実した紙面を目指しています。」(編集長・平嶋健人II社会学類3年)

次号は

7月14日(火)

発行予定です

第30回つくば芸術祭



講演するイラストレーターの中村佑介さん

5面へ

RICOCHET 21st FASHION SHOW



衣装を披露するモデル

5面へ

全日本柔道選手権大会



相手と組み合う永瀬(右)

8面へ

One Day Without Shoes



裸足で歩いた後、横断幕に足跡を付ける参加者

10面へ

学芸

学芸

スポーツ

学生生活